

安佐市民病院跡地の活用策について (素案)

平成 2 8 年 月

安佐市民病院跡地活用検討協議会

※第9回協議会において提示予定

はじめに

[illegible]

平成28年〇月〇日
安佐市民病院跡地活用検討協議会
座 長 大 畠 正 彦

1 安佐市民病院跡地(検討対象区域)の概要

(1) 位置・所在地

広島市安佐北区可部南二丁目1番1号

(2) 面積

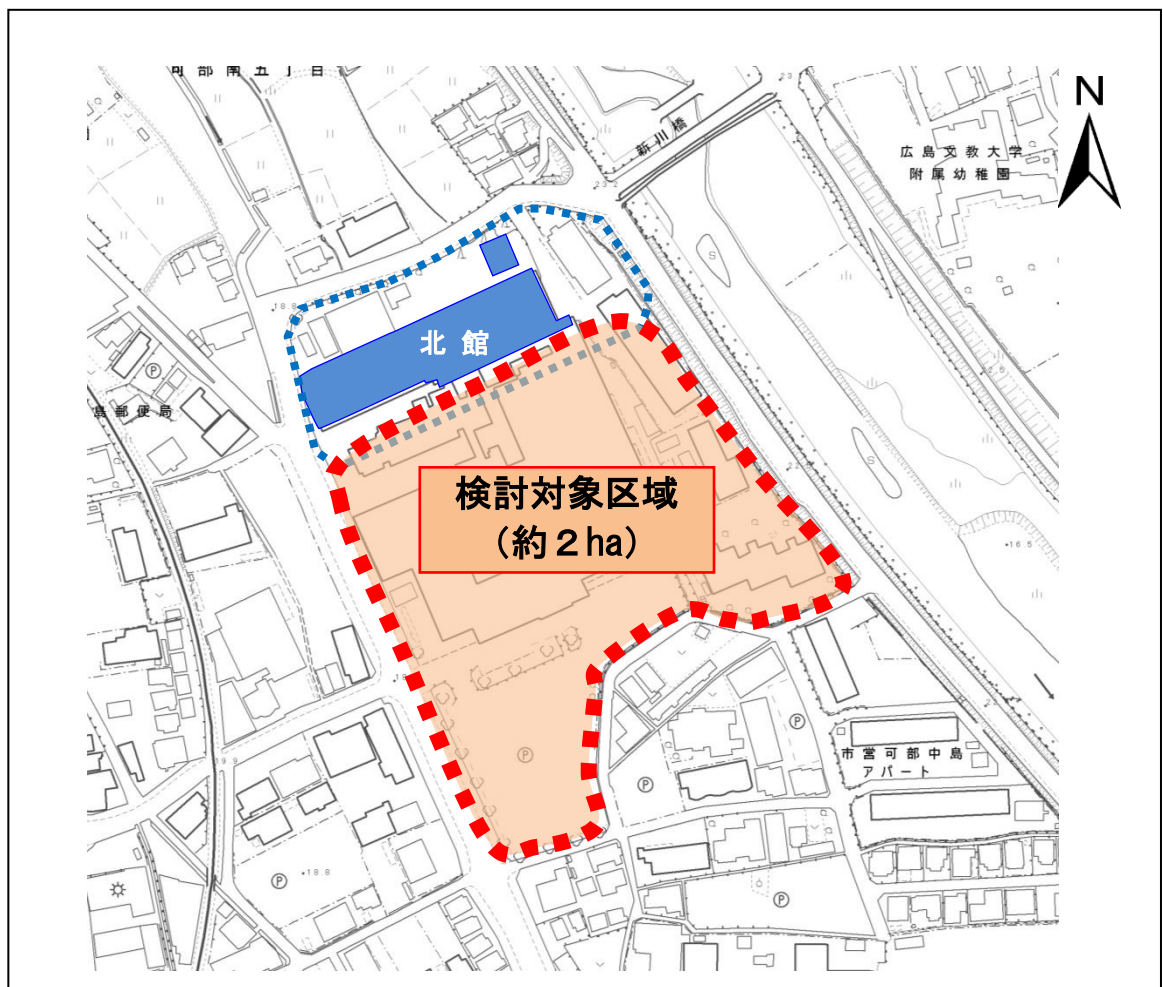
約2ヘクタール

安佐市民病院の主要な機能を荒下地区へ移転することにより、南館や医師住宅等の解体後に生じる跡地

※ 北館は、現在地に残し、緩和ケア病床等を備えた日常的な医療機能を整備する。

(3) 跡地活用の時期

跡地整備の事業着手は、現在の病院が荒下地区に移転・開業（平成34年春）後となる予定



2 検討の視点

地域の活性化に資する跡地活用とするため、協議会では次に挙げる視点から検討した。

① 病院周辺地域を今以上元気にする。

病院の主要な機能が荒下地区に移転することにより、現病院周辺地域が衰退するのではないかという周辺住民の方々の不安を払拭することはもとより、地域の魅力を一層向上させ、地域が今以上に元気になるような活性策を検討してはどうか。

② 可部地域町内会自治会連絡協議会（可部自治連）からの提言（平成27年7月30日）を踏まえる。

「民間商業施設とホールや図書館などが一緒にある施設」、「看護系、医療技術系の学部を持つ学校」としての活用の可能性を検討してはどうか。

③ 跡地活用による活性化効果を安佐北区全体に、さらに周辺市町へも及ぼす。

可部地域だけでなく、白木、高陽、安佐地域の住民、さらには県北西部の周辺市町の住民にもその効果が及び、地域全体の発展に寄与する施設・機能を検討してはどうか。

3 検討の経過

(1) 導入が考えられる施設・機能の洗い出し【第2~3回協議会】

可部自治連からの提言に加え、安佐、高陽、白木地域等、各地域の意見を各委員が取りまとめて紹介し、19項目の施設・機能が示された。

分 野	施設・機能
文化・コミュニティ関連	☐ 文化ホール・図書館 ☐ 子供向け施設 ☐ コミュニティセンター
公園・広場	☐ 子育て世帯向けの公園・イベント広場 ☐ 屋根付き野外ステージ ☐ スポーツ広場
商業関連	☐ 産直市場 ☐ 宿泊施設 ☐ ショッピングセンター ☐ レストラン
看護・医療・福祉系学校	☐ 看護系、医療技術系、福祉系の学校
健康・福祉関連	☐ 特別養護老人ホーム ☐ サービス付き高齢者向け住宅 ☐ 福祉センター ☐ 保育施設 ☐ 温浴施設 ☐ 総合体育施設
その他	☐ ヘリポート ☐ 根谷川の河川氾濫対策プール

(2) 民間事業者への聞き取り調査【第3~4回協議会】

跡地への導入が考えられる施設・機能の洗い出しと合わせて、実現可能性を踏まえた議論の参考とするため、跡地活用の事業主体となりうる次の民間事業者に対し、活用の可能性などについて聞き取り調査を実施した。

① 調査対象事業者

・不動産開発事業者（不動産会社、建設会社）	15社
・商業事業者	9社
・教育機関	13社
・福祉関係事業者	4社
・健康増進、余暇サービス関係事業者	8社
(合計 49社)	

② 調査結果概要

回答のあった事業者は28社（回答率57％）で、このうち「関心がある」と回答した事業者は次の10社であった。

・不動産開発事業者（不動産会社、建設会社）	3社
・商業事業者	3社
・教育機関	1社
・福祉関係事業者	2社
・健康増進、余暇サービス関係事業者	1社
(合計 10社)	

(3) 導入が望ましいと考えられる施設・機能の検討【第5回協議会】

各地域から示された19項目の施設・機能を基に、(2)の民間事業者への聞き取り調査結果を踏まえて、各委員の意見を集約し、跡地への導入が望ましいと考えられる施設・機能として、次に示す12項目に整理した。

整理した施設・機能（１２項目）

	施設・機能	内 容	イメージ図・写真等
文化・コミュニティ関連	文化ホール・図書館	文化・芸能等に関する公演や市民活動を行うことができる施設	
	子供向け施設	体を動かして楽しむことができる遊具などがあり、子どもや家族みんなが楽しめる常設の屋内施設	
	コミュニティセンター	区の魅力を紹介する案内所、展示ギャラリー等があり、地域住民の交流・活動拠点となる施設	
公園・広場	子育て世帯向けの公園・イベント広場	大型の遊具や芝生広場があり、子ども連れの家族がゆっくり楽しめる施設	
	屋根付き野外ステージ	雨天時でも各種イベントの開催できる施設	
商業関連	産直市場	旬の野菜、果物、季節の花など、とれたての農畜産物や加工品を販売する施設	
	ショッピングセンター	食料品、日用品や衣料品などを販売する施設	
	レストラン	跡地又は周辺施設を訪れた人々に飲食を提供する施設	
福祉系学校 看護・医療	看護系、医療技術系、福祉系の学校	高齢化等の進展に伴って、今後、より必要性が高くなる看護系、医療技術系の人材を育成する施設	
健康・福祉関連	サービス付き高齢者向け住宅	バリアフリーの居室や設備を備え、生活相談員が常駐し、様々な生活相談サービスを提供する高齢者向けの住宅施設	
	保育施設	保護者が乳幼児の保育をすることができないときや、安佐市民病院北館の患者や見舞客が子供への院内感染を防止するため、保護者に代わって一時的に乳幼児を保育する施設	
	総合体育施設	屋内スポーツのための施設で、災害時には避難施設として活用	

(4) 若い世代へのアンケート調査【第7回協議会】

跡地に導入する施設・機能の絞込みに当たっては、将来、跡地に導入する施設・機能を利用することになる若い世代の意見も参考とする必要があると考え、(3)で整理された12項目の施設・機能について、若い世代を対象にアンケート調査を行った。

① 調査時期

平成28年7月

② 調査対象

安佐北区内の小学校26校及び中学校11校のPTA役員185名

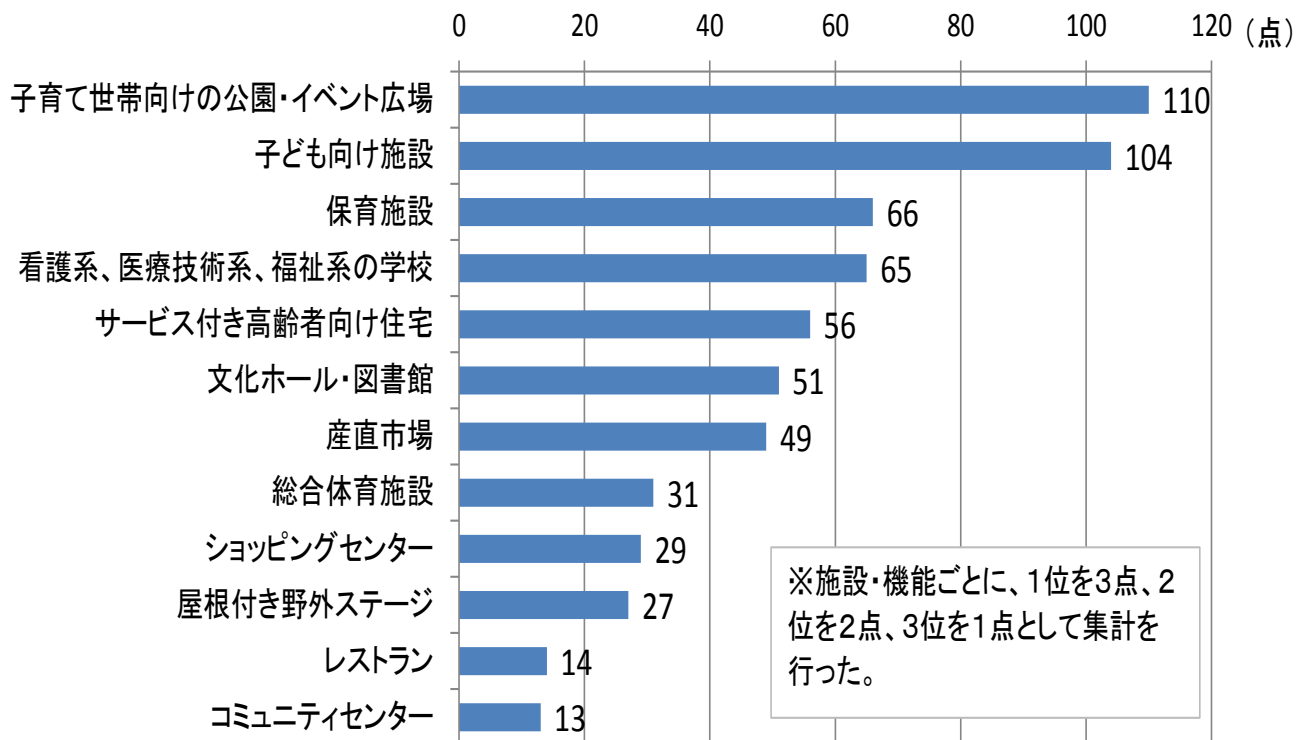
※1校当たり5名分のアンケート調査票等を配布

③ 調査回答状況

107名（回収率58%）

④ 調査結果

望ましいと考えられる施設・機能（加重集計※）



4 跡地活用の方向性

(1) 導入が望ましいと考えられる施設・機能について

跡地活用については、跡地にどのような施設・機能を導入するのが望ましいかという視点に立って、これまでの協議会での議論や若い世代へのアンケート調査結果を踏まえ、約1年間をかけて検討を加えた結果、次の8項目に絞り込んだ。

したがって、この検討結果は、最終的な跡地活用策に確実に反映される必要があるとともに、施設・機能の導入後においても地域の理解と協力の下で円滑に運用されるようにする必要があると考えている。

また、8項目の施設・機能については、跡地の面積が約2ヘクタールに限られており、その全てを導入するには制約があるために、最終的には絞込みを行う必要があると考えている。

したがって、8項目の施設・機能の導入の可否については、行政において複数の施設・機能を集約した複合施設の可能性も視野に入れた検証作業を行っていただく必要がある。

なお、その際には、病院機能の分化整備を行うに当たって北館で生じる余剰スペースが、8項目の施設・機能に活用できるかどうかについても、合わせて検証していただく必要がある。

【跡地への導入が望ましいと考えられる施設・機能】

- ① 文化ホール・図書館
- ② 子ども向け施設
- ③ コミュニティセンター
- ④ 子育て世帯向けの公園・イベント広場
- ⑤ 屋根付き野外ステージ
- ⑥ 産直市場
- ⑦ 看護系・医療技術系、福祉系の学校
- ⑧ 保育施設

(2) 導入が望ましいと考えられる施設・機能に関する協議会での主な意見

① 文化ホール・図書館

- ・ 文化・芸能等に関する公演や市民活動を行うことができる市北部の拠点として、現況よりも人を呼び込み、跡地周辺に賑わいを生み出すことが期待される。
- ・ 多くの区民が現区民文化センターの立地条件や交通アクセスに不満を持っている。

② 子ども向け施設

- ・ 現在、安佐北区総合福祉センター内にある常設子育てオープンスペース「スマイルあさきた」は狭く、駐車場も少ないため、新たな「子育て支援施設」の整備が必要である。
- ・ 人口減少に歯止めをかける視点からは、子育て支援施設も有効と考えられる。

③ コミュニティセンター

- ・ 神楽等が定期的に上演できる多目的ホール、区の魅力や特色を生かす施設、区を紹介する案内所、区の地産品の展示ギャラリー、産直市場を併設することにより、市北部の拠点として、広域的なまちづくりの中心的役割が期待できる。
- ・ 地域住民が地域活動のための資料を作成する際にパソコン等を自由に利用できる事務所的な機能が必要である。

④ 子育て世帯向けの公園・イベント広場

※「⑤ 屋根付き野外ステージを含む」

- ・ 大型遊具等を整備すれば、安佐北区全域から親子連れが集まるのではないかと。
- ・ 遊具を備えた大規模な子ども広場に野外音楽ホールや神楽上演舞台、コミュニティセンターを併設した多機能的広場とすることで、近隣市町との文化交流の増進を図り、200 万人広島都市圏構想の推進、北の玄関口としての賑わいの創出が期待できる。

⑤ 屋根付き野外ステージ

※「④ 子育て世帯向けの公園・イベント広場に含む」

⑥ 産直市場

- ・ 都市・農村間における住民の交流や情報交換により、地域の活性化を図ることができる。
- ・ 地域内外から人が集まることで、賑わいの創出が期待できる。

⑦ 看護系・医療技術系、福祉系の学校

- ・ 高齢化等の進展に伴って、今後、より必要性が高くなる看護系・医療技術系、福祉系の人材を育成することができる。
- ・ 学生や教職員など学校関係者が集まることで、地域における賑わいの創出や経済効果が期待できる。
- ・ 他地域からの入学も見込まれるため、若者の定住人口の増加が期待できる。

⑧ 保育施設

- ・ 子ども連れの北館病院の患者や見舞客にとって、託児場所を設けることで、子どもの院内感染を防ぐことができる。
- ・ 「住みたい、住んで良かった」といえるまちにするためには、特に子育て中の若い世代を支援する施設・機能が必要である。

